土木計画学
ハンドブックの使い方

東北大学　奥村　誠

基礎編・数学・OR・主査

２０１７．４．２８

ハンドブックの第一印象

First　Impression

- 「ハンド」で持つには大部すぎる．重すぎる．
- 基礎から応用分野まで，最新の研究成果，議論をカバーしている．
  - 初学者には少し難しい．多分わからない．
- 一旦土木計画学の門をくぐった人間には，わかりやすくできている．
  - 立ち位置の確認，次に進むべき道標になる
- 全ての研究室，計画関連の会社に１冊ずつ置いて，辞書として使ってもらう．

使用方法のイメージ（１）

Who read this handbook?

初学者，学部学生，行政で初めて計画的業務に就く担当者

まずは入門書，例えば教科書「土木計画学」奥村(2014)コロナ社　をお勧め.

大学院生，実務を幾つか担当した実務者

HBの関係する章通読＋研究事例（論文集）

→　自分の立ち位置，最新の手法までの発展経緯
→　論文事例中の未知部分のざっくりとした理解

使用方法のイメージ（２）

Who read this handbook?

計画実務現場に呼び出される研究者

土木計画全般の専門家としての知見を期待されるが，
実はすべての領域に通暁しているわけではない
知らないとも言えず，無責任なことも言えない

HBで専門外分野の基本的な考え方，方向性確認
→自分の直感への裏打ちができ，安心して発言

他の分野の内容を「読み物」として読むことで，
自分の分野の次の研究のネタが発見できるかも？

通読した感想（1/3ぐらいですが）

Attracting points

- トピックの取り上げ方，トーン，図表の使い方に個性がある.
- 統一感はないが，飽きない.
  - レベルの調整をあまりしていないので，今後の研究のネタになる「発見」も多い.
- 個別事例との連係関係がわかるとありがたい.

活用のための提案

- 今後，土木計画学論文講演集，土木学会論文集（通常号，特集号）に，キーワードとともに，関連する技術内容のHBの該当ページを示してもらうようにルール化.
- 計画学委員会HPに，HB目次⇆関連論文の相互リンク　のページを設置.
- ついでに
- ５０周年記念シンポジウムの若手作成の曼荼羅図とHB目次とのリンク.

後半のキーワード：理論と実務

問題の切り分けとフレーミング

呉越同舟の船を出す

乗れなかった人への別便の企画

事例を若干抽象化してフィードバック